

これからの地域で 必要なものとは何か!



木原 ● 泉さんのすごいところは、一軒一軒回っているところですね。1日1回、気になる高齢者を確認する見守り活動もやっっているんですか。

泉 ● 見守りは民生委員や地域福祉推進員、各班長が、一人暮らしの高齢者を1日1回必ず姿を見えるという活動を実践しています。特に、民生委員、地域福祉推進員の方には、非常にご苦労いただいています。1日1回の確認は、声をかけなければなりません。新聞受け、散歩、ゴミだしなど、何でもいから安否確認をすることになっています。

木原 ● 疑うわけじゃないけど、本当に出来ているのかな？

泉 ● それについては、きちっとやっています。もう一点、この時期、雪が降って新雪が積もります。休みの日に地域を回り「あれ、この家、昼になっても足跡が無いな」、そんな着眼点も持ってやっています。そこで、民生委員さんや班長さんに「ここのおばあちゃん、どうしたんや」と聞いたら、「言うのを忘れていたが、実は息子さんのところにちよつと行った」と、こういったやり取りをしています。

す。

木原 ● そういう足跡で出てきた形跡がないとかね、人の不審なところに気づくのはうまいですね。それを誰かにきちつと伝える。警察のセンスが役立つているんですかね。普通、男性はそういうところに気づかないですよ。

泉 ● 泉さんにもう一つ。自分の行動を振り返って、あの人が困っているよとか、困っている人が泉さんに言ってくれるようになるには、どうしたらいいと思いますか。

泉 ● 人と人とのつながり、いつもおしゃべりをするということですかね。

木原 ● 「ほつておいて」という人は、どうしますか。

泉 ● 完全に「ほつておいて」という人はいませんが、「そこまで関わらんといて」と言つて態度を示す人もいます。そこは根気よくやっています。

木原 ● 本田さんの話は、私もマップを作つていて、本田さんの言うとおりでだと思っんです。実際あったのが、母親が85歳、息子さんが50歳で障がいがあるね、こんな2人のケースがあります。皆さんは、ぜんぜん関知しないんです。

ね。お母さんの気持ちがわからないのかね。おそろく地獄ですよ。私が死んだら、この子はどうなるんだらうつて、毎日毎日考える。こういう状態ですよ。

そのときにポイントは2つあるんです。

一つは、周りがその人のできることを探して応援する。

もう一つは、障がい者施設が、その働きかけを地域にやつていくつてことは出来ないですかね。その人の持っている能力を広げるといのがポイントだと思います。

木原 ● あと、本田さんがおつしゃつていた課題として、男性がなかなか出てきてくれないというのは、どこでも共通の課題なんですかね。

そこで、ちよつとヒントなんです。男性はおしゃべりがいやな人が多いんですよ。おしゃべりより、何かをするのならいいという男性が多いですよ。うまく男性を取り込んでくるグループは、だいたい「あれやつて、これやつて」とお願いしていますね。

もう一つはね、男性は押しかけると受け入れますね。押しかけサロンつてのを開いて

いるところがありますよ。結構受け入れてますよ。全国に広がっています。来ないけど押しかけるのは、受け入れま

すね。不思議な生態だね。

木原●高木さんにお聞きします。町会役員をするメリット、デメリットってなんだろう。めつたに見ないよ、こんな若い副会長さんは。また、役員

になる担い手はいる？

高木●メリットは、早いうちから町内の活動に参加できることです。デメリットは、副会長でも多くの役員は年上の方なので、副会長らしい発言ができませんね。ですので、発言より、行動で示さないとだめですよ。そこが難しいですね。

また、青壮年団の活動の中で、声をかけたら率先して協力してくれる人材がいます。これは、次の担い手がいるということなのでうれしいですね。

木原●ひとつ私が気づいたことがあります。それぞれの発表を聞いて、どの地域も共通の課題が出たのかなってね。「つながりが無い、青壮年団、男が、一人暮らし、なかなか外に出ない、それから帰れる地域」こういった課題

から、実はみんな逃げちゃっているんじゃないかということ。です。

今日、一番感動したのが、泉町会長さんと高木副町会長さんがやっていることで、よく一軒一軒回ったね。最後は、それをやるよりしようがないなと感じましたよ。

木原●ここで皆さんに聞きたいんですけども、ふれあいまでできましたか。ただし、多くはふれあいはするけど、助け合いは止めておこうねというふれあいなんです。例えば、子ども会のメンバーで、障がい者まで入れてないんですね。なんで入れないといけなのとお母さんに言われちゃう。それは、会としては楽しい会なんです。ただし、お互い愚痴が出たときに、それを捕まえて引つ張り出して解決していく。これが助け合いなんです。飲み会でも同じ。つまり、つながり作りまではできているんです。もう一歩が、なかなか踏み込めないということが現状ではないでしょうか。

ふれあいサロン、ふれあいイベントはいいと思います。ただし悩みは言わない会なんです。ふれあいから助け

合いにいけるかがポイントだと思えますが、これを超える方法として何か工夫してますか。

泉●小牧のほうでは、語らん会を開いて、いろんな話を出しています。

本田●和倉の町には、ほかの地区からいらつしやつた方もたくさんいるので、まず私ができることとしては、声かけが一番大事かなと思つてます。知らない人でも出会うつた「おはようございます」といった挨拶からはじまり、「こないだも出会うつたね」と積極的に声をかけていく形にすればお互いに信頼関係を作つていけるんじゃないかなと考えています。

高木●自助にも限界があります。公助も同様です。そんな中で共助を高めていく必要があると思つています。そういった中で、私の町会ではいろいろな取り組みを進める中で、人と人とのつながりが出てきたのだと思います。

木原●お宅でしている飲み会で困りごとは出てる？

高木●出てますね。ただ、話だけで終わっています。

木原●それを解決しなきゃ。
木原●太鼓の会では困りごと

出てる？

辻口●おばちゃんばつかりのグループなので、練習の合間に井戸端会議をしています。その中ではいろいろ相談しています。ほかの団体とは、まだそこまで深くないんですけど、これから少しずつ門が開いたんだから、広げていけたらいいと思います。

木原●本日のフォーラムのテーマは、「助け合い支え合い町会」です。私が申し上げたとおり、非常に難しい状況がありますね。それを乗り越えていくには、具体的に、飲み会なら飲み会が出た困りごとを解決する。子ども会には障がい児を入れる気がある。サロンの中に認知症の方も入れるかとかね。そういうところから一歩ずつ具体的に進めた方がいいと思います。一般論として共助を高めると言つても、どうしようもありません。なんかもう一歩入つていきたいですね。よくつながりを深めて助け合いをしようという話があります。実は、一回助け合いをしてみたら、つながりが深まるんです。逆なんです。そうすると一歩超えて助け合い支え合い町会になつていける感じがします。

フォーラムを通して感じたことは、一つ目が、各町会で課題や解決方法もいろいろあり、その中でいいものは、どんどん取り入れて、「一人一人が豊かに暮らす」を実現できる地域活動を続けたり、創つたりすることが大事ということ。

二つ目は、日頃当たり前のようにしている町会行事や共同作業なども、実はさまざまな意味があり、新しい取り組みを考えることもあるかもしれないですが、今までであった取り組みを、もう一度考えることが必要ということ。

三つ目は、町会やご近所で地域の課題や困り事で、話し合い解決策を考えて、取り組みを始めるということ。

ふれあいから助け合いへ、助け合いをするとながりが深まる。今こそ一人一人の力や知恵を集めて、「わが町内のまちづくり」をしていくことが求められています。年齢や障がいの有無に関わらず、安全で安心して、その人らしく暮らし続けられる七尾になると信じています。